

理学部を去るに当って

山下 博（素粒子物理国際センター）



理3号館の北側にタンデム型静電加速器があります。1971年迄は理学部に所属していましたが、現在は原子力研究総合センターが管理しています。

国産第1号器で多分に試作器的性格を帯びていたうえ、建設時に加速器予算の一部を建物予算に割譲した事などの事情が重なり、完成が予定より遅れました。また加速器を使用して実験研究がスムーズに出来る迄には、多くの労力を必要としましたが、現在ではマシンタイムの配分に苦慮する程に利用が多くなっています。予算不足を克服して、加速器の稼働率をあげる事に専心した人達は大変苦勞をしました。加速器に関わった一人として振り返ってみますと、人間の努力だけでは十分でなく、やはり十分な予算が必要だという事を痛切に感じます。といたしますのも、加速器要員の絶対的不足は別として、例えば加速器を安定に制御出来る電源、排気性能がよく人手を必要としない

真空ポンプ等を購入できる予算があれば、もっと早く、加速器は利用者の要求に応えられたと思うからです。

素粒子センターに移ってからは、幸運にもCERNに行く事が出来ました。そこでは、科学の最先端の実験をするために、OPAL検出器が製作されていました。私はこの検出器の中心的役割を果す鉛ガラスカウンターの組立等に参加したわけですが、LEPコライダーがビーム加速に成功するや、他の三つの検出器に先駆けてOPAL検出器が、Z粒子を見つけたという速報を耳とした時は感激しました。

ところで、現在、物理教室では実験系研究室間の予算を公平にするため、技官のいる研究室にペナルティを課していると聞いています。これは技官に精神的ストレスを与えるよからぬ制度ではないでしょうか。

理学部では、有能な女性の方々によく出会いましたが、ポストには恵まれていないようでした。有能な女性も然るべきポストが得られるようになれば、彼女達も、現在より一層強力な、教育、研究のよきサポーターになっていけるのではないのでしょうか。事務長、関係方々の御一考をお願いしたいと思います。

最後に紙面を借りまして、31年間お世話くださった皆様に心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。